

第6回栃木県「文化と知」の創造拠点整備構想策定検討委員会

議 事 録

令和6（2024）年9月10日（火）

栃木県総合政策部総合政策課

第6回栃木県「文化と知」の創造拠点整備構想策定検討委員会

1 日 時

令和6（2024）年9月10日（火） 15時00分から17時00分まで

2 場 所

栃木県庁東館4階講堂

3 出 席 者

【委員】 池内淳委員、umi.委員、大川秀子委員、大森宣暁委員、寛雅貴委員、木村好文委員、郡司成江委員、小林圭介委員、小林崇宏委員、須賀英之委員、関谷吉光委員、田中久美子委員、富田章委員、中島宏委員、橋本大典委員、日原公大委員、松本千栄子委員、麦倉仁巳委員、村崎なぎこ委員、森いづみ委員

※小林圭介、森いづみ委員は Web 参加

【県】 総合政策部長、総合政策部次長兼総合政策課長 外

4 議 事

1 開 会

2 知事挨拶

<栃木県知事から挨拶>

【栃木県知事】

美術館、図書館及び文書館を、本県文化振興の中核として整備する「文化と知」の創造拠点整備構想は、昨年8月に第1回検討委員会を開催して以来、5回にわたって熱心にご議論いただいた。委員の皆様方からは、3施設の現状と課題をはじめ、整備地、基本理念、コンセプト、施設整備、管理・運営計画等について、専門家あるいは利用者の視点から、それぞれの知見に基づく大変有意義な意見を賜ったことに、改めて感謝を申し上げます。

本日は、検討委員会での議論に加え、これまで実施してきた県民ワークショップや、各施設の利用者のアンケート調査を踏まえて取りまとめた整備構想案について説明するので、検討をお願いしたい。

今後、年内にパブリックコメント等の手続きを経て整備構想を策定するが、「文化と知」の創造拠点が、「将来にわたり県民に愛され、誰もが誇りに思える、とちぎならではの拠点」となるよう、引き続きお力を賜りたい。

3 報告事項

(1) 各施設利用者アンケートについて

<事務局から資料1により説明>

4 議題

(1) 栃木県「文化と知」の創造拠点整備構想(案)について

<事務局から資料2により説明>

～意見～

【県】

欠席の委員から別途意見をいただいているので紹介する。

まず、1人目だが、「開く」、「つなぐ」、「育む」の3つの視点に沿った施設としてほしい。特に、「開く」では、全ての県民に開かれて興味を引き、訪れてもらうことが大切である。今後も、設計等の段階において、様々な意見を聞きながら、柔軟に対応してほしい、との意見があった。

次に、2人目だが、教育機関との連携は、教員不足や働き方改革等、学校現場の状況も踏まえた持続可能な手法となると良い。美術館では、美術以外にも栃木ゆかりの作家や、社会の教科書に載っている絵の学習等、教科横断的な学習に利用できるのもので、教育機関も利用しやすくなるのでは、との意見があった。

次に、3人目だが、同じ日光街道沿いにある施設と連携し、日光街道が「文化と知」の街道となると良い。整備地は、周辺に住宅が多いため、地域に開放された施設となると良い、との意見があった。

最後に、4人目だが、交通事業者と連携・調整し、誰もが気軽に訪れる施設になると良い。県の姉妹都市と連携したイベントや展示等を行うことができれば県外からの利用促進につながる、との意見があった。

【委員長】

「Ⅱ現状と課題」について、検討委員会では「市町の美術館、図書館との差別化を図る必要がある」、「収蔵庫が不足している」等の指摘があった。また、「資料の増加によるバックヤードの不足化や、専門職員数の不足等については、開館後も継続的に検討すべきテーマである」との意見をいただいた。追加でご意見あるか。

【委員】

3施設が上手く共存できる体制を作ることが重要である。各施設で様々な問題があると議論の中で出ているので、3施設でハード・ソフトの両面で連携が図れるよう、綿密にコミュニケーションを取り、それらを上手く解消できるようになると良い。

【委員長】

「Ⅲ基本理念等」について、検討委員会では「一体的に整備するのが良い」、「各施設の独立性を保ちながら、緩やかにつながるような構造を作るべき」等の意見があった。

また、基本理念について、検討委員会では「県民に長く愛される、一体化した施設ができると良い」、「地域の住民や県民にとって役に立ち、楽しめる施設になってほしい」等の意見があった。

コンセプトについて、検討委員会では「3つの施設、3つの機能が連携することで、人が来たいと思える魅力的な施設となるようにしてほしい」、「それぞれの収蔵している美術品や資料を生かし、連携することで相互利用できることが大切」等の意見があった。追加でご意見あるか。

【委員】

アンケート調査の中にもあったが、3施設が一緒になるので、相互利用や相互交流を図りながら、気軽に訪れることのできる美術的な拠点を創り出すのが、多くの県民に望まれていることではないか。単なる美術館、図書館、文書館だけではなく、そこにプラスアルファで何かを加えて拠点とするなど、ハード面やソフト面を今後どのように整理していくかが重要である。

【委員】

拠点にとって重要なことの1つは集客力である。アンケート結果に、「気軽に訪れやすい環境」を求める声があるように、立地も重要だが、整備予定地は、県外・海外も含めた様々な利用者にとって、一番バランスがとれている場所である。県内の利用者は車での移動が多いので、広い駐車場が整備できる立地は非常に良い。一方で、県外や海外の人にとっては、駅からのアクセス性が重要であるため、駅からの車以外の交通手段を強化する必要があり、県と宇都宮市で連携・協力することが必要不可欠ではないか。LRTの整備も、計画時と現在では状況が変化しており、実際に拠点ができるまでにも状況が変わってくると思うので、より良いものを作るためにどう連携していくかを考えてほしい。

【委員】

「開く」、「つなぐ」、「育む」の3つの言葉は、非常に明るい未来につながる。一方通行ではなく、色々な人が可能性を持つことができ、また、様々な関心を持つことができるということで、コンセプトも非常に良い。

【委員】

「Ⅲ基本理念等」の「整備に係る基本的な考え方」について、「施設・設備等やサービスの共用化・共通化による効率性の向上」が冒頭にあり、その後、3施設の連携による機能強化や相乗効果が図れるという流れで記載されているため、拠点の整備で最も優先順位が高いものは、効率性の向上であるという印象を受ける。効率性の向上も重要ではあるが、基本理念の冒頭には理想を掲げてほしい。

例えば、「Ⅰはじめに」に、栃木県における文化の拠点の全体像が博物館等も含めて描かれたうえで、既に十分な機能を果たしているものもあるが、今回は施設的に課題を抱えている3施設に焦点を絞って「文化と知」の創造拠点として計画・構想を立てる、というような前提が記載されていても良いのではないか。

【委員】

県庁には、宇都宮市の名産である大谷石が使われているが、県民にほとんど知られていない。拠点では、栃木県を代表するものを使用し、県民にそれを知ってもらいたい。また、先ほど言及があったように、整備予定地である県体育館跡地は、県立博物館や子ども総合科学館との位置関係からも、拠点を作るのに最もふさわしい場所であるということ、より明確にしたほうが良いのではないか。例えば、交通について、競輪場通りや日光街道のような昔からの街道からも近く、交通の要衝にあるということ、分かりやすく説明できると良い。

【委員長】

「Ⅳ機能と役割」の4つの新たな機能のうち、「デジタル」について、「デジタルツールの活用に加え、定期的にユーザーの声を聞いて、それを運営に生かせる仕組みづくりが必要」、「紙媒体と電子媒体を上手に組み合わせたハイブリッド型の施設としてほしい」等の意見があった。

「共生社会」について、「ノーマライゼーションの考え方が重要」、「バリアフリーだけではなく、震災時の配慮をしてほしい」等の意見があった。

「環境配慮」について、「SDGsや環境に配慮した建物、公共交通、次世代モビリティ等の観点を取り入れてほしい」等の意見があった。

「地域連携」について、「教育機関と密に連携して、豊かな環境を作してほしい」、「近隣の博物館等の施設とも連携してほしい」等の意見があった。追加でご意見あるか。

【委員】

全てを網羅しており、非常にうまくできていて素晴らしいと思っている。一方で、例えば、「ユニバーサル」等、その言葉に酔いしれてしまわないように気を付ける必要がある。

本来、「文化」も「知」も、裏側での地道な努力が必要なことで、生み出すためには苦しみを伴うものである。そのような側面があることを忘れずに、努力していかなければならないと思う。

【委員】

整備予定地の近くには、多くの教育機関があるため、授業でも是非、使ってもらいたい。「文化と知」を次世代に継承することもコンセプトの1つにあるが、「文化と知」という言葉自体が抽象的なものかと思う。具体的に示せると、若い世代も理解でき、さらに次の世代へ継承できるのではないか。

【委員】

二番煎じでも良いので、優れた先行事例は取り入れていってもらいたい。建築は空間を支配する空気感が大切であり、効率性の向上だけではなく、専門家の意見をいただきながら進めていくことが大切である。

また、地域に根付く施設としていくことは当然のことながら、「世界に誇れるもの」ということを見据え、3施設が持つそれぞれの役割はもちろん、それらに付随する飲食・休憩スペースや自然環境についても、遊び、楽しさといった観点も持ちながらデザインしていってもらいたい。

整備予定地は、住宅が多く、あまり整備が進んでいない地域であるため、その中で異空間感が演出できるような駐車場の工夫やコンセプトがないと埋もれてしまうのではないか。日光杉並木、子ども総合科学館等の今あるものをつなぎ合わせ、生かせる拠点としてほしい。

【委員長】

「V施設整備計画」のうち、敷地計画について、検討委員会では「駐車場が少ないため、十分な駐車場を計画してほしい」、「学校利用等で子どもたちも来るため、バスの駐車場が必要である」、「車いす用駐車場も含めて、交通アクセスに十分配慮してほしい」等の意見があった。

施設計画について、検討委員会では「一部共用で建物を一体化するのが良い」、「外観が印象的なものを作るべき」、「県産材を使用する、建物自体を芸術的にするなど、栃木のシンボルとなると良い」、「静かに鑑賞するところと、賑わいのあるところのスペースとの住み分けを考慮する必要がある」等の意見があった。追加でご意見あるか。

【委員】

県全体の方々が遠くからでも来たくするような、魅力的な施設を作る必要がある。長時間滞在できる仕掛けを作り、遠くから来ても1日楽しめるような、施設全体に「滞在する楽しさ」を作るのが良い。また、地域の子どもの勉強しに来るだけでなく、近隣市町以外の小学生が遠足で来る、場合によっては県外からも来る施設とするなど、これまでと発想を変える必要がある。

リアルである建物については解像度が高いが、デジタルについては、曖昧な部分がある。3施設を物理的に融合させるのは難しいが、デジタルについては不可能ではないので、企画運営部門のような全体を統括する部門で専任の職員を雇い、県民が日常的に遠くからでも利用できる仕掛けを作っていく必要がある。リアルに来る楽しみと、デジタルで遠くにいても使えることの利便性を両立させると良い。

また、今は多くの方が建物の魅力や空間の居心地のよさを重視しており、その辺りを考慮した建物と

してほしい。

【委員】

3施設が一緒になったからこそ生まれる新しい魅力や、3施設が一緒にならないとできないようなアクティビティを提供できる拠点にしてほしい。次世代を担う若者が訪れたい魅力的な建築物とし、「文化と知」を生み出せる具体的な拠点にしてもらいたい。

【委員】

3施設が一体的に整備され、それぞれの専門家がそこに集まり、専門性を生かして何かができることになると思うが、ライトな利用者からすると、あまり専門性を強調しても、敷居が高くなる。敷居が低くなるような、来館しやすいような取組を3施設で企画するのも良い。3施設が集まって何かを行うことは、すぐにできるわけではない。3施設でまず人を知る、仕事を知る、業務を知る、現状を知る、ということからお互いにできることを行い、情報発信することで、拠点の認知度も上がるのではないかな。

【委員】

3施設が一体となり、魅力的かつ印象的で、人々がまた来たい、ゆっくりできる建築となるよう考慮してほしい。誰でも来られて敷居が低いという話があったが、「開く」はそういった意味や、人がつながり育むという意味もあるように思う。敷居が高いというのは、専門的な視点にも耐えうるとも言える。「開く」「つなぐ」「育む」は、万人に値するところを作ること、非常に難しい課題がある。理想的な構想案ができて、それを今度はどのように実現していくかは、そこで働いている人々の見識によるものが大きい、期待している。

【委員長】

「VI管理・運営計画」について、検討委員会では「ボランティアが運営等に参加できると良い」、「学芸員や司書の存在が大きい、スタッフの確保や人材の養成が必要」、「企画運営部門をいかにうまく運営していくかが課題」、「総合的に統括するようなコンダクターが必要」、「企画展の中で学術的なものと誘客を狙うものとの住み分けなど、企画に工夫が必要」、「外国籍の児童や生徒のように日本語が母国語でない人も楽しめるものが必要」等の意見があった。追加でご意見あるか。

【委員】

講演会等を開く場合に、専門スタッフがいて、使用料を払えば、即座に動画配信等ができる施設だと、利用者側としては非常に使いやすい。最近、県外の人から宇都宮市に来た場合に、せっかくだからLRTに乗っていこうと考える人が多いので、例えば、LRTから拠点までを循環バス等で接続すると良いのではないかな。

【委員】

障害者側の立場で考えた場合、建物などハード面でのユニバーサルデザインだけでは限度があり、なかなか老若男女・障害者が過ごしやすい、利用しやすいというわけにはいかない。そうした状況を補足してくれるのは人的な支援や援助だと思うので、管理運営については、その点も配慮してもらいたい。特に最近では、視覚障害者や目の悪い人のために、バリアフリー対応に力を入れていただいているが、図書の郵送対応が可能なのは13市町、拡大器が設置されているのは10市町といった状況である。そういった点について、デジタルを活用し、対応してもらいたい。障害者だけではなく、高齢者でも読書をしたいが、目が悪くて読めない人もいと聞いているため、その辺りの対応にもつながるのではないかと。

【委員】

「専門職員や事務職員を適切に配置」とあるが、特に、図書館の司書について、最近では多くの図書館で1年契約の職員がいる。図書館司書は代名詞、図書館の顔的な存在であるため、しっかりと専門の人を配置してもらいたい。また、デザインについて、美術館も入るため、外見적으로おしゃれな建物を求められている方も多いと思うが、SNS上には、おしゃれすぎて雨漏れが酷い、レールの取り付けが必要になってしまった、本が高いところにありとれないといった他館での事例についての意見もあるため、おしゃれな側面も必要だとは思いますが、ユーザー目線で確かな機能面できっちりしたものを作ってもらいたい。

【委員】

管理・運営体制について、企画運営部門とコア業務を担う専門職員を適切に配置することを明記してあるのは重要である。コア業務を担っていく専門職員（図書館の司書、美術館の学芸員、文書館のアーキビスト）は、ぜひ、県の正規職員として配置してもらいたい。その理由は、「育む」に、「文化と知」の創造拠点として、環境を整え、将来にわたり活躍できる人材の育成に寄与するとあることに関連して、この先変化の大きい時代に対応しながら常に3施設の機能を発揮するには、栃木県のことを本当に理解している人材を育成していく必要があるからである。全県の関連施設の職員の底上げにも直結すると思うので、大切な視点だと考える。

また、企画運営部門と各施設のコア業務の役割分担について、例えばデジタルアーカイブであれば、システム基盤の設計・契約は企画運営部門で可能である。しかし、どのようなコンテンツをデジタル化すればさまざまな立場の人にとって魅力的なコンテンツになるか、活用されるかは、各施設の専門職の人たちがプロジェクトに参画し、一緒に作りあげていく体制が望ましい。

【委員】

文書館の利用者数は、他の2館には及ばないところはあるとは思いますが、歴史に興味のある高校生にとって大きな意味を持つ施設であるため、単に数だけでは測れない価値がある。文書館の占める面積が他館と比べてあまりにも小さい印象を持ったが、バックヤード、十分な収蔵スペースを今後に向けて確保

するため、各施設の意見を聴取してほしい。

3施設のいずれにおいても、専門職員の力が大きいので、コア業務を実施する専門職員の適切な配置をお願いする。

また、拠点での企画の実施については、講堂が大きな意味を持つ。宇都宮南図書館のホールなどは非常によい。大きなスペース、いろいろなことができる可能性のあるスペースが必要ではないか。

コア業務を担当する職員が、業務に専任できるように、キッズルーム等のアメニティ部分とコア業務とを切り離す必要がある。

【委員】

コンセプトの「開く」「つなぐ」「育む」は、素晴らしいテーマだと思うが、3点、意見がある。

1つ目は交通アクセスについてで、LRTとどのようにつないでいくかである。LRTとバスを連携させる、拠点までの約2kmの距離を楽しく歩ける歩道を整備する等について、考える必要がある。

2つ目は管理運営についてで、3施設を様々な人に楽しんでもらうためには、企画運営部門にプロが必要である。作ったけれども中々集客できない、訪れたことがないではもったいない。

最後に3つ目だが、これからの栃木の未来を考えると、どんどん人口が少なくなり、若い人は大学で県外に行く中で、魅力ある栃木を作っていかななくてはいけない。施設を作ることによって魅力的な街であるとアピールできるようなものとしてもらいたい。俯瞰して見たときに、3つの施設をどのようにコラボするのが良いか、新たな視点や感覚で見直してみると、プラスオンされる何かがあるように思う。

【委員長】

概要版と整備構想の案については、今日いただいた意見も踏まえ、事務局と調整し、取りまとめる形でご了解いただきたい。

6回の委員会を通じて、強く印象に残った委員の意見を3つにまとめると次のようになる。

1番目は、全国で例を見ない3施設、美術館、図書館、文書館の複合施設として、目に見える形で相乗効果を発揮し、県、市町の文化振興にも貢献すべき役割がある。

2番目は、栃木県の誇りとなる「文化と知」の創造拠点として、海外や全国に広く栃木の文化と魅力を情報発信する役割を担い、また、新たな県独自の「知」を生み出す文化交流の拠点にするべきである。

3番目はこの施設が、文化振興によるまちづくりの先導的な役割を担う為に、今後、宇都宮市や国、県、あるいは事業者等の間で、文化とまちづくりの調整を進めるべきである。

私見ではあるが、栃木県が誇る「文化と知」を発信するためにも、例えば、日光東照宮や大谷石等の、栃木県にゆかりのあるテーマを選定して、3施設合同で調査・研究を進めて、共同の展示等ができるとうまいのではないかと考えている。

【委員】

3施設の相乗効果についての話があったが、「文化と知」の創造拠点とするのであれば、例えば書店

を誘致するとか、ミニシアターで作った映画が流れているとか、もっと色々な要素を足していても良い。本当に栃木の文化の発信拠点となれるように、今後機能を具体的に考えられれば良い。

【委員】

「開く」「つなぐ」「育む」について、様々な専門分野の方が集まり、意見を言い、それを取り込みながら構想を策定するということが「開く」「つなぐ」「育む」につながっているように思い、感動している。学生などの若い人たちは、ワークショップに参加することができ、大変良い経験になったのではないか。

【委員】

広さについて、栃木県が誇る、今後何十年も先の将来を見据えた計画で各施設の想定される面積が、近年の県立施設の広さの平均値で良いのか。近隣施設や、近年の建設事例を参考にするのであれば、その中の最高値をとるべき。建物は、できてみると狭く、あれが欲しい、これが欲しいとなるのが一般的であるため、最大値を取り、余裕を持った計画にするのが各施設にとって良い。

また、建築が魅力的でないと人は集まらない。先日公表された練馬区立美術館・貫井図書館の計画は、非常に先進的なアイデアであり、話題になっている。実際に参考とするかは別として、建築自体が人々を呼び込むような施設を作っていただきたい。

スタッフについて、嘱託の職員をたくさん雇うのではなく、コア業務、統括運営などに正規職員を配置し、長い目で見て計画を立てられるスタッフを育成してほしい。

【委員】

検討委員会を通して、様々な視点からの色々な意見を聞いて多くのことを学ばせていただいた。拠点を通して、子どもたちの創造力を養う場を作り、利用や鑑賞の機会を提供し続けることによって、5年後、10年後に育ってくるコンテンツもあるのではないか。「創造」という言葉が最初から出てきているが、創造とは、0から1を生み出すことだけでなく、今ある既存の要素をたくさん組み合わせることで、新しいものを生み出すことも「創造」であると考えているので、多くの方が関わって、育みながら、栃木県の文化、芸術の底上げにつながれば良い。文化、芸術を底上げするということは、栃木県の魅力を上げることにもつながると思う。拠点が完成するのは、まだ先になるが、これからも一人のアーティストとして、拠点到作品を飾っていただけるように、今後も成長していきたい。

【委員】

昨年の8月からスタートして1年と少しの期間だが、皆さんと一緒に検討会に加わることができ、お礼申し上げます。県と市町の連携が今後どのように果たせるかが重要である。特に、文書館は、人材や維持管理の観点から、市町で持つことが難しい。図書館、美術館については、市町にも存在するので、県と市町の役割を分けていくべき。美術館については、県美術館から作品を借りるなど、大きな役割を担

っているため、今後とも県のゆかりの作品や芸術家の調査・研究をお願いしたい。

【委員】

専門家の意見をお聞きし、中身の濃い議論に参加させていただき、本当に勉強になった。LRTの停留所から拠点までの交通アクセスについては、今後、検討いただきたい。自動運転のシャトルバス、新しいパーソナルモビリティやキックボードのシェアリングサービス等色々手段があると思う。

【委員】

県内外、世代を超えた委員から多様な意見があり、参考になった。栃木県のシンボルになる、世界レベルの良いものができることを願っている。公共施設は作ってから、いかに生かすか、発展させていくかが重要である。100年先も県民の誇りとなる施設としていていただきたい。

【委員】

多様な有識者の方と委員会に参加でき、大変勉強になった。大学進学で栃木県に来たが、栃木県はとても住みやすく、第2の故郷であると感じている。拠点の工事が始まり、完成したというニュースを見たら、大変誇らしく思うのではないかな。

【委員】

文化施設が、県民からどのように見られているかを学ぶ場になった。3施設を一体的に整備するのは挑戦的で、文書館と美術館を一体的に整備するということに、最初は素朴な驚きがあった。美術館や図書館と一緒に整備することは、栃木県の歴史等に触れる機会をつかむ、大事な機会だと思うので、成功させてほしい。

そういう意味では、アンケートの結果、6割の人が「文化と知」の創造拠点を知らないという状況であった。各施設がこれからどこに向かうのかを少しずつ打ち出し、県民の方が少しでもわくわくするような発信をしていくと、機運醸成につながっていくと思う。

拠点の整備スケジュールを考えると、ここにいる世代の1周り下の世代が拠点の中核を占める。次の世代が拠点で気持ち良く仕事ができるように、今後、連携や情報交換を緊密にさせていただき、次の世代にバトンをつないでいてほしい。

【委員】

今日の6回目まで、色々な議論をしてきた。美術館、図書館、文書館にもう一度行きたいと思ってもらえる施設を作らないといけない。中身が重要なのでぜひ頑張ってください。是非、良い人材に運営してもらいたい。

【委員】

公共の中で誰もが満足する、誰もが楽しくなる、平和になるものを作っていくことの、難しさや大切さを検討委員会で教えていただいたように思う。建物はいつまでも残るわけではなく、修復が必要である。古くなったら壊すのではなく、直していくことの継続が生きていく1つの環境だと思う。公共施設も少し長い目を見て、完璧なものを作ろうと思わず、継続することに重点を置き、事業を続けていくと良いのではないか。

【委員】

コンセプトに集約された内容から、今後どんな施設ができるか楽しみにしている。栃木県民として、県内外の方が来訪した時に、拠点に来て、栃木の素晴らしさを感じてもらいたいと思っている。

【委員】

1年間、検討委員会に参加し、障害者の立場から意見を言わせていただき、お礼を申し上げる。図書館、美術館、文書館が一体となって、栃木の魅力発信に寄与してもらえれば、本当に素晴らしいと思う。栃木の魅力度は下位であるが、せめて半分くらいになることを期待している。

また、最後に1点お願いとなるが、計画・設計、工事等で約10年程度かかるようである。現状の3施設は、老朽化、バリアフリーに対応できていない、認知度が低い、駐車スペースがない等の課題があるが、そのような状況であと10年程度は利用することになるため、新しい建物ができるから良いではなく、現在の施設も改善できるところは改善して、県民が利用しやすいようにしてもらいたい。

【委員】

私と県立図書館は同い年で、図書館のデビューも県立図書館で、ともに図書館と歩む人生だったため、老朽化と聞くと心苦しい。最近、宇都宮市内でも大型書店の閉店が続いている。20年前に大きな書店ができたが、あっという間になくなってしまった。図書館と書店はイコールではないが、図書館で本に出会って、そこから書店で買ったりするような、入口的な存在になっている。寂しいニュースが続く栃木県・宇都宮市の本事情なので、拠点の整備が是非、明るいニュースになってほしい。

【委員】

検討委員会に参加でき、お礼申し上げる。拠点が本当にできあがったら素晴らしいものになると思うので、検討委員会に参加できたことに感謝している。これからまだまだ時間がかかって大変だとは思いますが、色々なことを一緒にできたら良いと思っている。

【委員】

第6回最終回とのことで、今日まで大変お世話になった。特別支援学校に勤めた経験があり、肢体不自由の子供が集まる学校であったが、実際に障害のある子供たちを外部に連れて行く際には、バリアフ

リーが思いのほか進んでいないというのが正直な実感である。障害がない子どもは、いつでも行きたいところに行ける。美術館にも行こうと思えばすぐ行けるが、障害のある子どもは中々それが難しい。学校の遠足で美術館や博物館に行ったというのが子供たちの心の中に残っている。改めてではあるが、バリアフリーを可能な限り徹底していただきたい。障害のある子どもたちが、行きたいときに、何回でも行けるような施設にしていいただきたい。私自身も、県立美術館に行ってこの絵を見たなど、いつまでも覚えている。県民の心の豊かさにつながるため、素晴らしい施設を作っていいただきたい。

【委員】

検討委員会に参加させていただき、お礼申し上げます。一般利用者の立場で考え、色々な意見を出すようにしていた。早く完成品が見たい、10年とはとても待てないという思いである。アンケート結果を見ても気軽に利用したいという意見が総数の半分以上あった。それくらい気軽に行けて楽しめて利用できる施設が理想だと思う。コアの部分は少し専門性が高いイメージになるが、全体としては利用しやすく、それを実現するのは企画運営部門であると思う。実際には難しいかもしれないが、施設内でアルコールが楽しめると思う。図書館や文書館とアルコールは結びつきづらいが、美術館やレストランでは可能かもしれない。施設の中でそのような楽しみができれば良い。

【委員】

夢のあるプロジェクトに関わらせていただき、お礼申し上げます。図書館には「図書館は成長する有機体である」という言葉がある。時代とともに機能を拡張しながら、時代に合わせて成長していくという意味である。実際に拠点が立ち上がるまでは最大10年かかる計画であり、その間に社会が変化していたり、技術が進化していたりするだろうが、その中で、都度、最適化を図りながら進めていってほしい。作るプロセスも県民と一緒に進めていただきたい。

【委員長】

委員の皆様から貴重な意見をいただき、お礼申し上げます。今日、検討委員会として、構想案がまとまった。この後、パブリックコメント等を行い、年度内に県が構想を策定する。

事務局においては、検討委員会での議論や県民や議会の意見を踏まえながら、来年度から、より具体的な計画の策定や推進のための組織づくりを行っていただきたい。

4 閉 会

【県】

委員長をはじめ、委員の皆様方には1年以上にわたり熱心に議論していただいた。皆様の議論の結果、「文化と知」の創造拠点のベース・枠組みができたものと思っている。問題はこれからこのプロジェクトにどれだけ気持ち、心を入れるかである。今日いただいた意見も踏まえながら、拠点が将来にわたり県民に愛され、誇りに思える施設になるよう、基本理念に恥じないような施設となるよう努めて参る。